



2023年3月期第2四半期決算 2023年3月期業績予想 中期経営計画の進捗

オリエンタル白石株式会社
(プライム市場 1786)

2022年11月28日

代表取締役社長 大野 達也

Agenda

- I 2023年3月期第2四半期連結業績概要
- II 2023年3月期連結業績予想
- III 中期経営計画（2020-2022）の進捗



I 2023年3月期第2四半期連結業績概要

※ 中期経営計画（2020-2022）3年目

(注)

オリエンタル白石株式会社（当社）は2021年4月1日、当社の完全親会社であるOSJBホールディングス株式会社（同社）を吸収合併し、OSJBホールディングスの連結財務諸表を引き継いでいます。前期と比較を行っている項目については同社の2021年3月期との比較、また前期末と比較を行っている項目については同社の2021年3月期末との比較しています。



事業環境

1

建設業を取り巻く事業環境

- ① 2022年度の建設投資は、66兆9900億円(前年度比0.6%増)の見通し
 - ② 政府投資は前年度比3.7%減の22兆5300億円であるが、防災、減災、国土強靱化やインフラ老朽化対策を継続して実施する
 - ③ 令和7年までの5年間15兆円の投資となる「防災、減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」は、追加的に新たな重点対策の策定が見込まれる
 - ④ 令和4年度第2次補正予算案は、令和3年度補正予算と同規模の約2兆円を確保された。公共事業予算の内容としては、災害復旧が約4000億円、国土強靱化が約1兆2500億円、生産性向上が約3500億円となる
- ①②③ 10/12国交省発表 ④ 11/8閣議決定

2

当社グループ事業に関連する事業環境

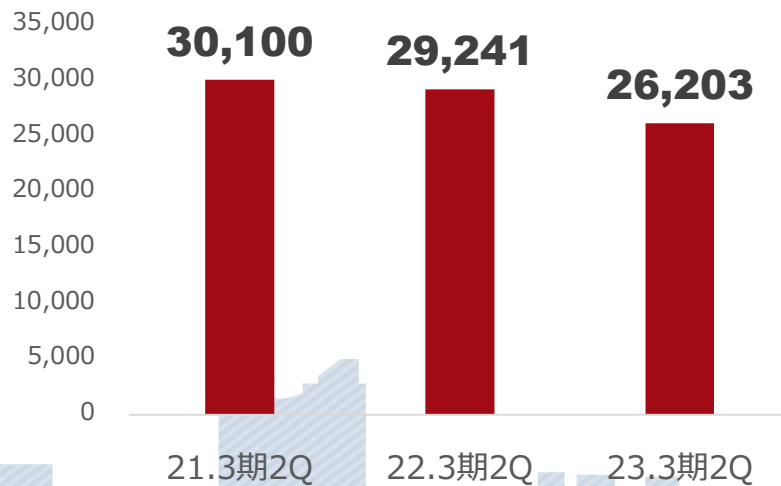
- 高規格道路のミッシングリンク解消及び4車線化、高速道路等の6車線化等において、当社グループの新設橋梁(PC橋、鋼橋)の設計・施工力をもって活躍
- 事業が加速する中で、大型化、多様化しつつある高速道路大規模更新事業において、床版取替、耐震補強、脱塩などの当社開発工法を駆使
- 激甚化、頻発化する台風、洪水、高潮、津波、土砂災害等の防災・減災において、ニューマチックケーソン工法、港湾・河川工事技術で貢献

売上と損益

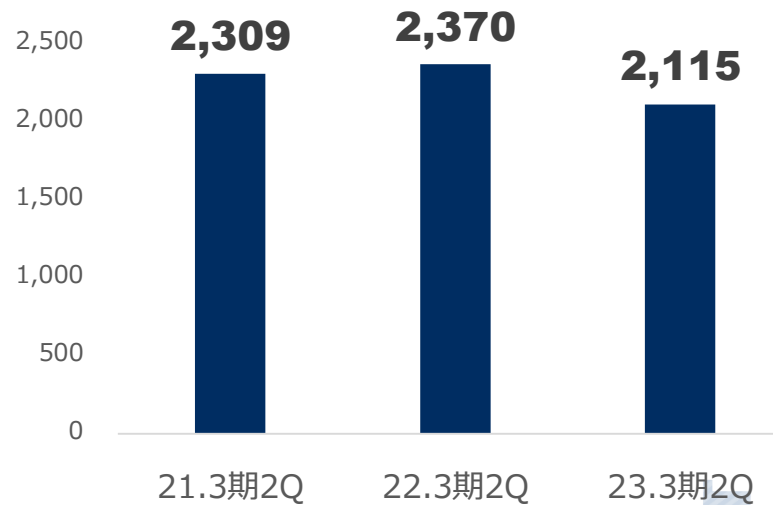
単位 百万円	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期		2023年3月期 第2四半期		主な増減要因
	実績	前年同期比 増減率 %	実績	前年同期比 増減率 %	実績	前年同期比 増減率 %	
売上高	30,100	27.8	29,241	△2.9	26,203	△10.4	・ 港湾事業の売上減
売上総利益	25,750	32.2	24,426	△5.1	21,523	△11.8	・ 建設事業の利益率は向上するものの、 売上減によって利益は減少
営業利益	2,245	10.4	2,301	2.5	1,983	△13.8	
経常利益	2,309	11.5	2,370	2.6	2,115	△10.8	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,653	△70.4	1,628	△1.5	1,448	△11.0	

単位 | 百万円

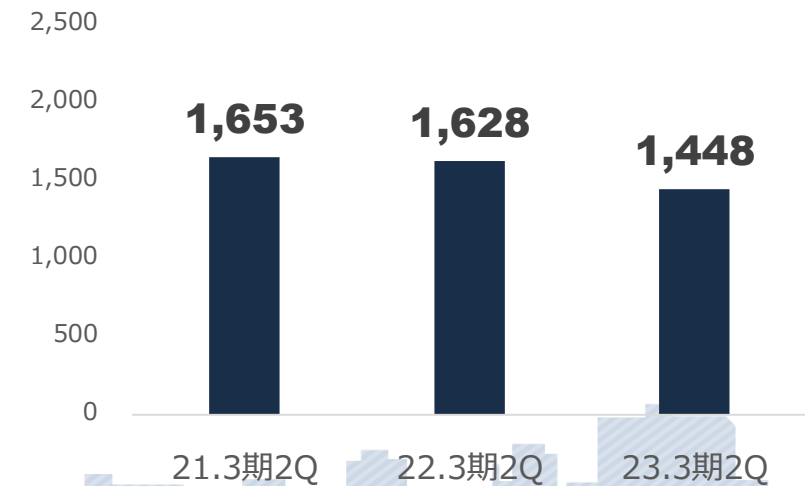
売上高



経常利益

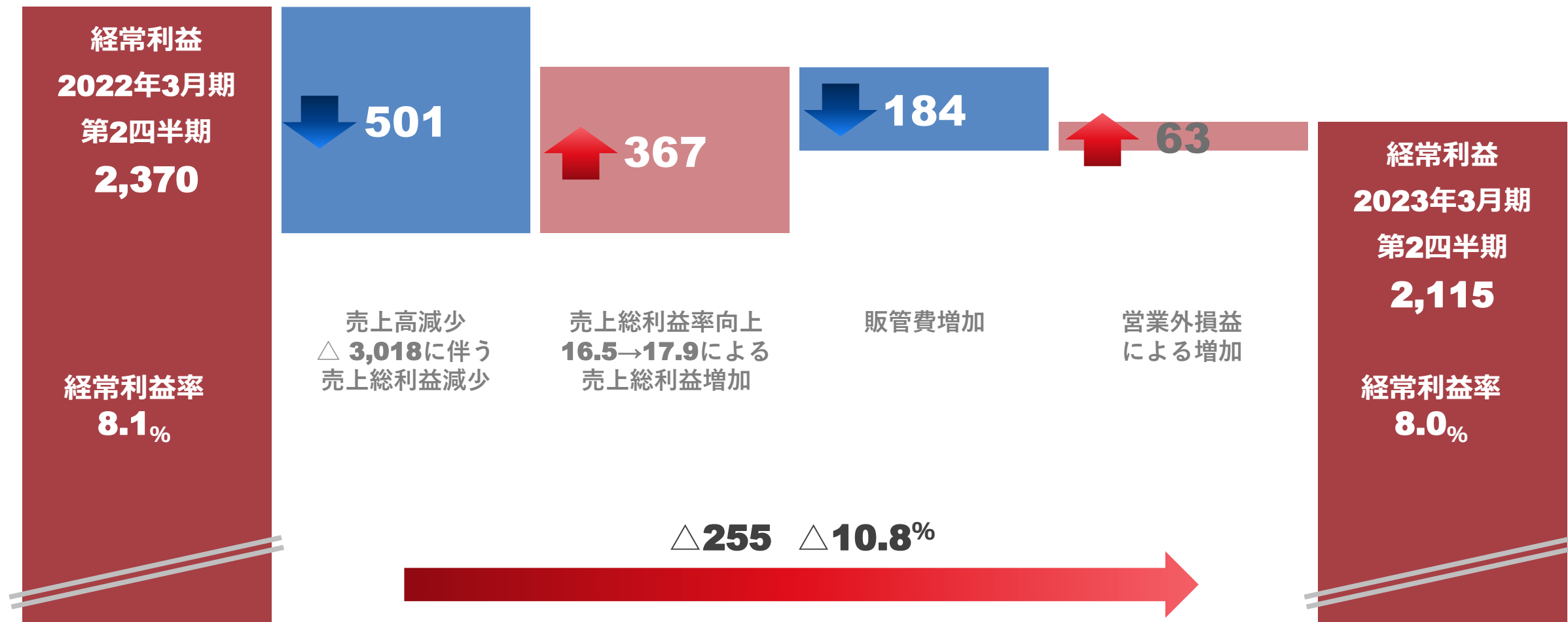


四半期純利益



損益状況 | 経常利益増減要因分析（前年同期比）

単位 | 百万円



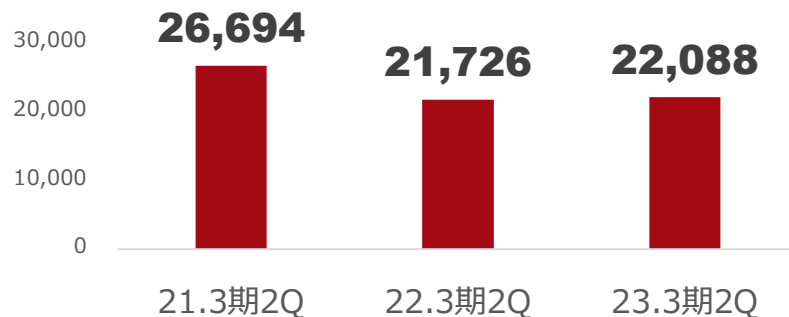
事業別の概況 | 建設事業

業績推移

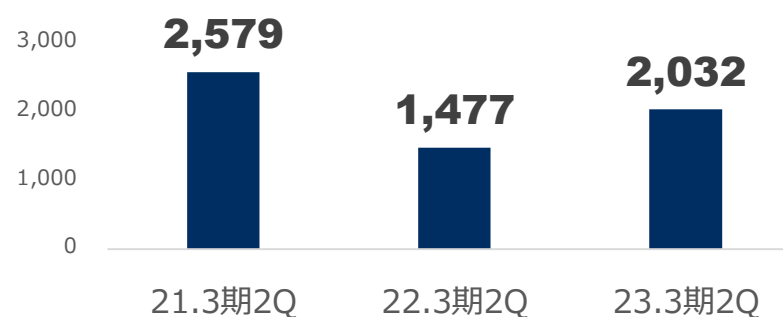
- 新設橋梁、ニューマチックケーソン、補修・補強工事の主力事業を中心に、売上を確保
今期の後半に向けては、いくつかの大型工事の始動、渇水期による工事進捗、工場の稼働率の向上により売上は加速
- ケーソンの売上が増加、加えて、大型上下部一式工事の設計変更で利益を確保
- 次期中期経営計画（2023-2025）に向けて豊富な受注残を確保

単位 | 百万円

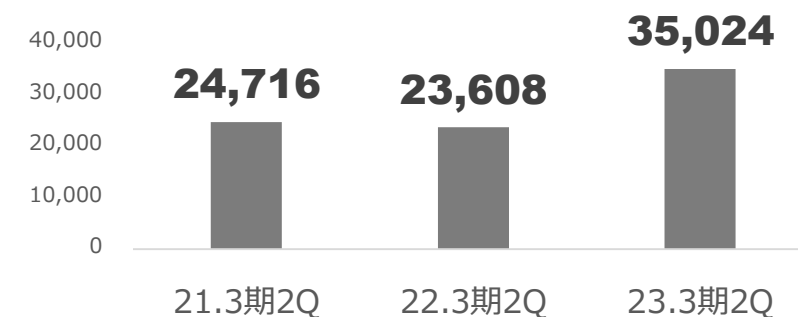
売上高



営業利益



受注高



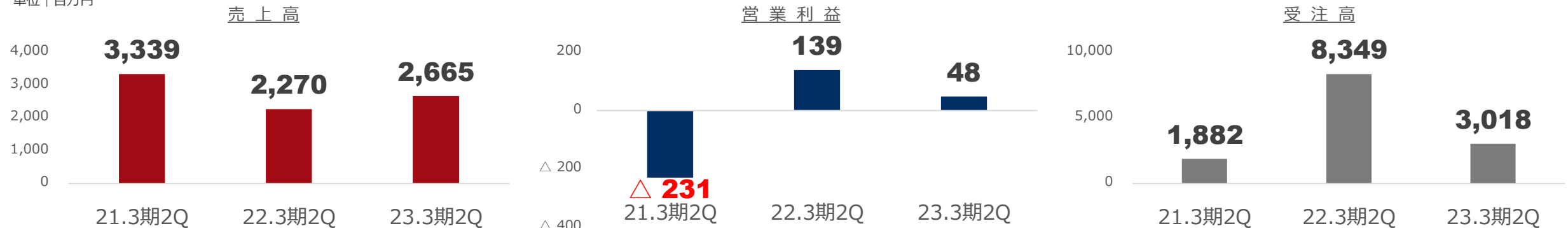
主な受注工事		発注者	工事名称
建設事業	橋梁の補修補強工事	NEXCO西日本	松島高架橋 他9橋 橋梁更新工事（建設工事その1）
	コンクリートの新設橋梁工事	NEXCO西日本	竹辺1号橋 他2橋
	ニューマチックケーソン工事	栃木県	那珂川橋 P1

事業別の概況 | 鋼構造物事業

業績推移

- 順調な補修補強工事に加え、前期より新設橋梁の売上が増加
今期の後半に向けては、工場の生産売上が増え、ペースアップが見込まれる
- 前期前半での大型設計変更が今期前半にはなかったものの、後半の売上増と利益改善で目標達成を図る
- 新設鋼橋の大型案件を受注し、受注残が積み上がり、今後は、選別受注に努める

単位 | 百万円



主な受注工事		発注者	工事名称
鋼構造物事業	鋼構造の新設橋梁工事	東日本高速道路株式会社	首都圏中央連絡自動車道 国道296号インターチェンジランプ橋工事
	鋼構造の新設橋梁工事	国土交通省中部地方整備局	令和4年度 23号蒲郡BP金野第5橋鋼上部工事

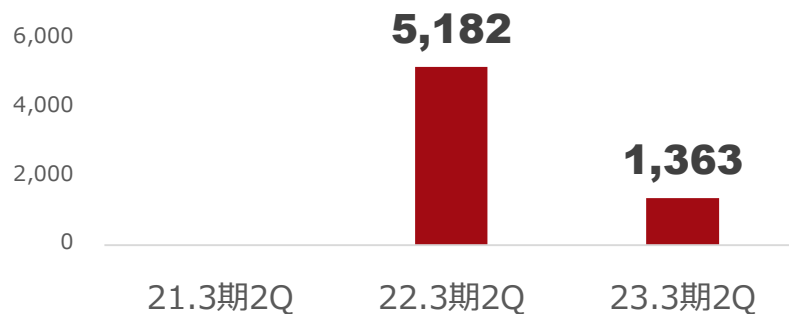
事業別の概況 | 港湾事業

業績推移

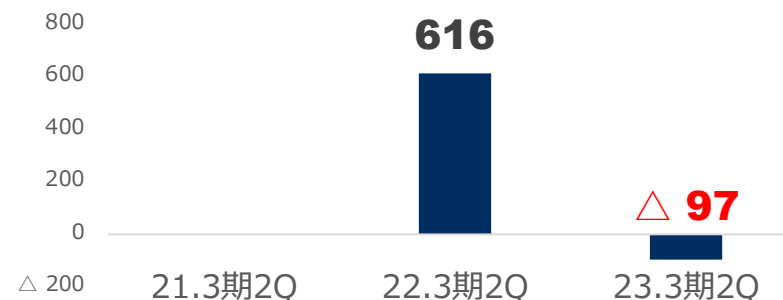
- 会計基準、決算時期の変更により、売上が膨張した前期に比し、進行基準となった今期、大型プロジェクトが一服したことに加え、いわき地区での発注量の縮小もあり、売上の大幅減となった
- 売上減に加え、M & Aによるのれん、顧客関連資産等の償却もあり利益が大幅減
- 小名浜港湾はプロジェクトの谷間にあるが、港湾、土木の中小工事の受注を積み上げながら、次期プロジェクトに備える

単位 | 百万円

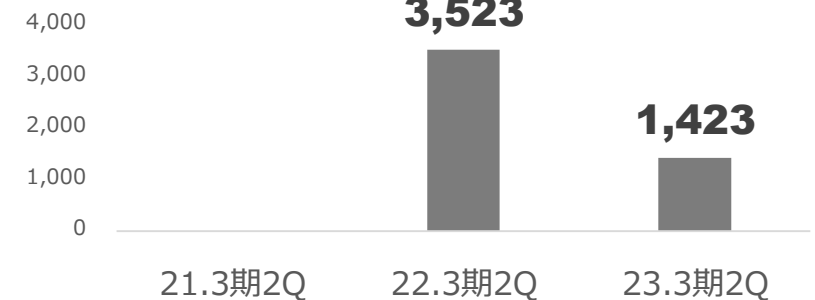
売上高



営業利益



受注高



主な受注工事		発注者	工事名称
港湾事業	港湾工事	福島県小名浜港湾事務所	漁港(交付)工事(離岸堤)
	港湾工事	国土交通省東北地方整備局 小名浜港湾事務所	小名浜港東港地区防波堤(第二沖)築造工事(その2)

財務状況

単位 百万円	2021年 3月期末	2022年 3月期末	2023年 3月期 第2四半期末	前期末比		主な増減要因	
				増減額	増減率 %		
流動資産	47,106	45,645	50,642	4,997	10.9	現金及び預金 受取手形・完成工事未収入金 未成工事支出金	+ 1,513 + 2,256 + 810
固定資産	16,062	15,306	15,453	147	1.0	機械及び装置 投資有価証券 繰延税金資産	△ 183 + 292 + 345
資産合計	63,169	60,952	66,095	5,143	8.4		
流動負債	19,627	15,901	21,303	5,402	34.0	支払手形・工事未払金 未成工事受入金 賞与引当金	△ 1,404 + 3,190 + 1,329
固定負債	7,158	6,060	5,621	△ 439	△ 7.2	長期借入金	△ 401
負債合計	26,785	21,962	26,925	4,963	22.6		
純資産合計	36,383	38,989	39,169	180	0.5		
負債・純資産合計	63,169	60,952	66,095	5,143	8.4		
自己資本比率	57.6	64.0	59.3	－	△ 0.7pt		

* 2021年3月期末について、2021年2月19日の山木工業ホールディングス株式会社との企業結合の暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を使用

キャッシュ・フローの推移

単位 百万円	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
営業CF	2,235	12,263	3,767
投資CF	△2,822	△1,029	△644
財務CF	△1,147	△1,646	△1,609
現金・現金同等物四半期末残高	12,488	18,241	14,826
フリーCF*	△587	11,234	3,123

*フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

単位 | 百万円

■ 21.3期2Q

■ 22.3期2Q

■ 23.3期2Q

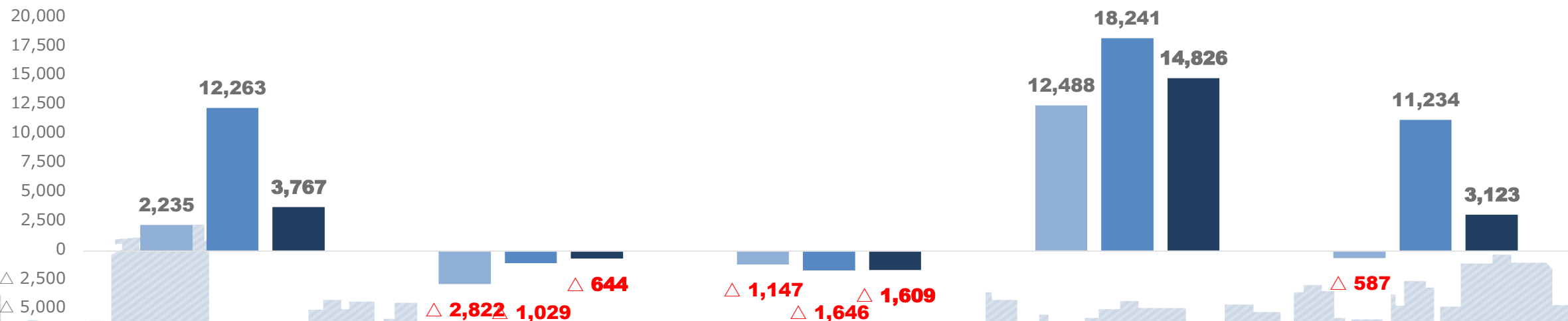
営業CF

投資CF

財務CF

現金・現金同等物

フリーCF



Ⅱ 2023年3月期連結業績予想

※ 中期経営計画（2020-2022）3年目

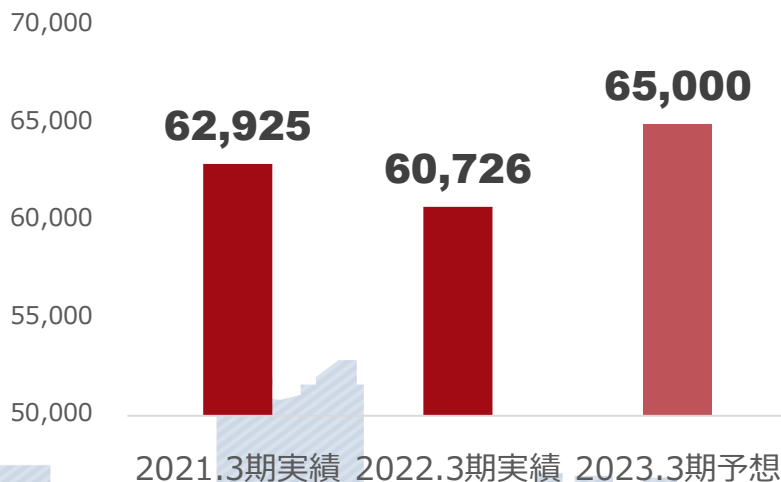


業績予想 | 期初予想値から変更なし

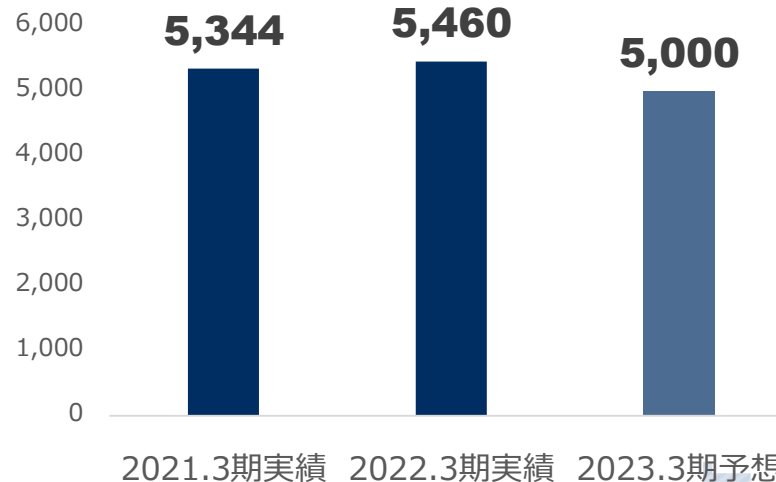
単位 百万円	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		主な増減要因
	実績	前期比増減率 %	実績	前期比増減率 %	予想	前期比増減率 %	
売上高	62,925	18.4	60,726	△3.5	65,000	7.0	・ OSJB発足以来、建設事業は2番目、鋼構造物事業は最高の売上を予想 ・ コロナウイルスや材料・燃料が高騰するリスクを加味しつつも、補修補強工事やニューマチックケーソンなど主力事業の収益力が高く営業利益、経常利益とも3期連続で 50 億円を上回ると予想
営業利益	5,239	38.4	5,308	1.3	5,000	△5.8	
経常利益	5,344	36.5	5,460	2.2	5,000	△8.4	
親会社株主に帰属する当期純利益	3,943	△42.2	3,778	△4.2	3,300	△12.7	
一株当たり年間配当 円	8.00	据え置き	11.00	3.00	11.0	据え置き	

単位 | 百万円

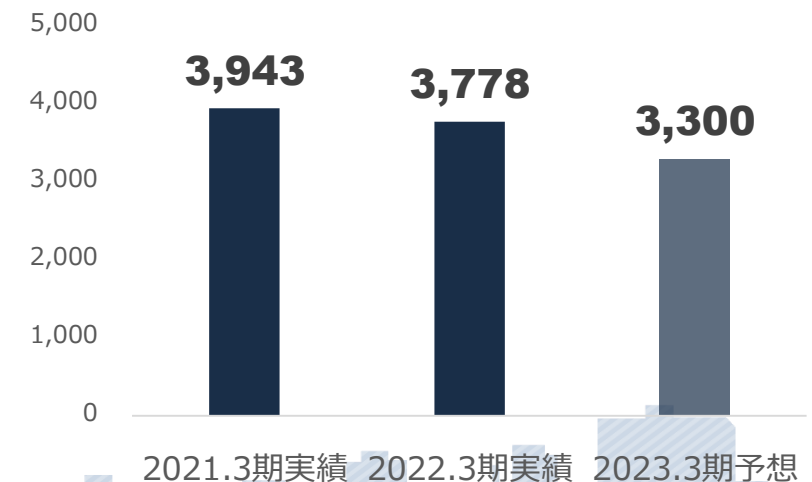
売上高



経常利益



当期純利益



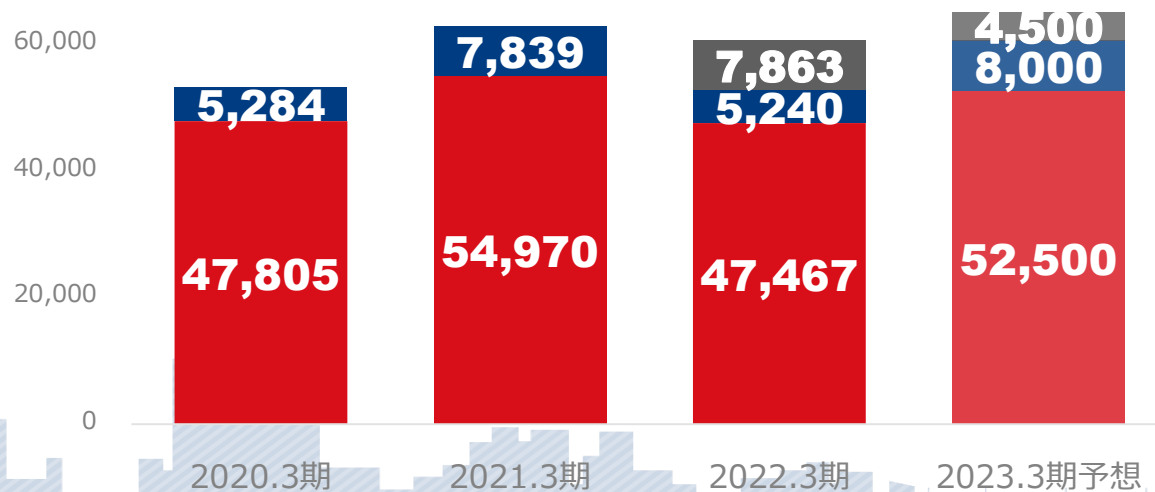
事業別業績予想

単位 百万円	2023年3月期予想				主な増減要因
	売上高	前期比 増減率 %	受注高	前期比 増減率 %	
建設事業	52,500	10.6%	56,000	12.5	・ 新設橋梁は回復、ニューマチックケーソンは増加、補修補強は高水準を維持、OSJB発足以来、建設事業として2番目の売上
鋼構造物事業	8,000	52.7%	5,000	△55.0	・ 新設橋梁は一定量を確保しながら補修補強で売り上げを伸ばす、OSJB発足以来、鋼構造物事業として最高の売上
港湾事業	4,500	△43.0%	3,000	△43.4	・ 当期はプロジェクトの谷間にあたり、中小規模の港湾・土木工事に注力
合計	65,000	7.0%	64,000	△3.5	

単位 | 百万円

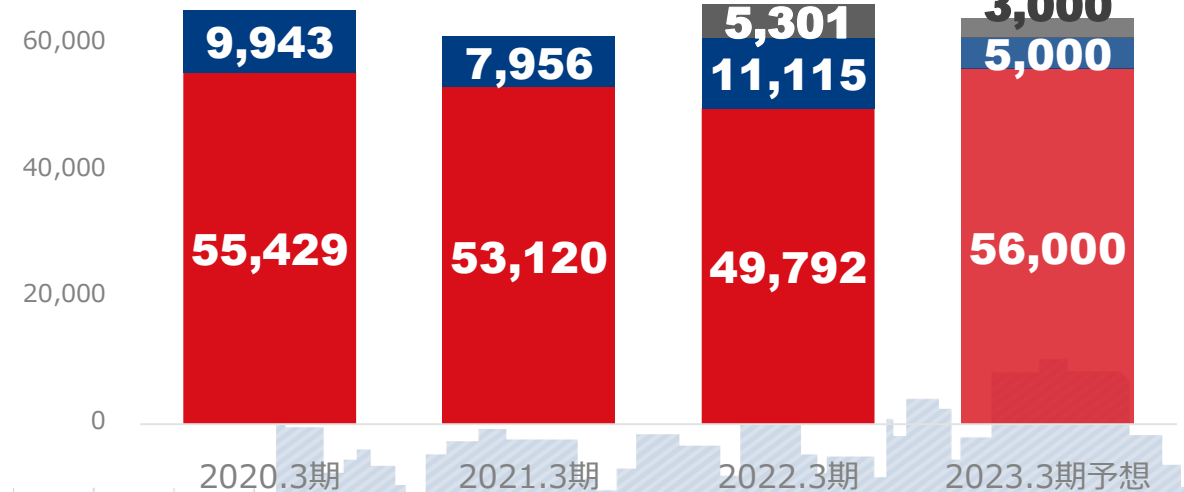
売上高

■ 建設事業 ■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業



受注高

■ 建設事業 ■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業



株主還元 | 期初予想値から変更なし

基本方針

株主の皆様に対する安定した利益還元を経営における最重要課題のひとつと考え、安定した利益配当を継続して実施する

	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 目標
1株当たり年間配当	8.00円	8.00円	11.00円	11.00円
配当性向	14.0%	23.9%	33.9%	40.0%程度
総還元性向	18.4%	31.8%	31.8%	40.0%以上

業績を上げていくとともに
中期経営計画2020-2022で目標として掲げた
配当性向40%程度、総還元性向40%以上
を目指す

Ⅲ 中期経営計画（2020-2022）の進捗



事業環境認識

社会環境

- 少子高齢化/人口減少
- デジタル技術革新
- 社会インフラ老朽化
- 激甚化する災害
- 働き方改革/ダイバーシティ
- 新型コロナウイルス感染拡大
- コーポレートガバナンス
- 環境配慮型社会等SDGs
- 上場基準見直し

事業環境

- 維持更新事業の拡大
- 国土強靱化
- 地方の活性化（ストック効果とコンパクトシティ）
- 時間外労働の上限制限
- 生産性向上の実現
- 品質/安全管理の充実
- 担い手不足
- 材料・燃料費の高騰
- 職員・作業員の賃上げ
- カーボンニュートラルへの対応
- 出入国管理法改正
- キャリアアップシステム本格運用
- 株主還元策/資金有効活用
- 非財務情報の充実

事業環境による淘汰を生き延び、
事業環境によりグループをさらに強くし、
事業環境が生むビジネスチャンスで成長する！

2030年のあるべき姿と中期経営計画2020-2022

2030年に向けて



2020/4～2023/3

「事業」「構造」「投資」「SDGs」に対する施策を進め、「2030年のあるべき姿」への礎を築く

2017/4～2020/3

「既存事業の収益力強化」「新規・新領域事業への進出」
「研究開発の強化と戦略的投資」

「2030年のあるべき姿」

中期経営計画2020-2022
～グループの『安定と成長』を止めない～

中期経営計画2017-2019
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

事業環境の変化や、それに対応する投資を続けていくことを踏まえ、次期中期経営計画では長期ビジョンと短期的、中期的目標を再構築

基本方針・骨子

計画の位置づけ

『2030年のあるべき姿』を実現すべく、
グループの強みを活かした事業展開を進め、
競争力及び企業価値の向上を図る！

基本方針

① 課題解決 への貢献	- 国土強靱化、インフラ老朽化対策、経済活性化、地方創生の課題解決への貢献 - これを企業業績の向上につなげる	③ 筋肉質そして フレキシブル	- 人材育成を通じた体制強化とダイバーシティを推進し、筋肉質でフレキシブルな組織を目指す - リスクマネジメント、モニタリング体制を強化、グループシナジーの発揮、BCPを実践
② 深める！ 広げる！	- 主力事業のさらなる強化に加え、新規事業、海外事業等へ事業領域を拡充 - 競争力の強化と生産性の向上に資する研究開発と戦略的投資に注力	④ 有形・無形の 企業価値向上	- 安定的な配当継続を目指す - 環境事業を進めるとともに社会貢献に努める

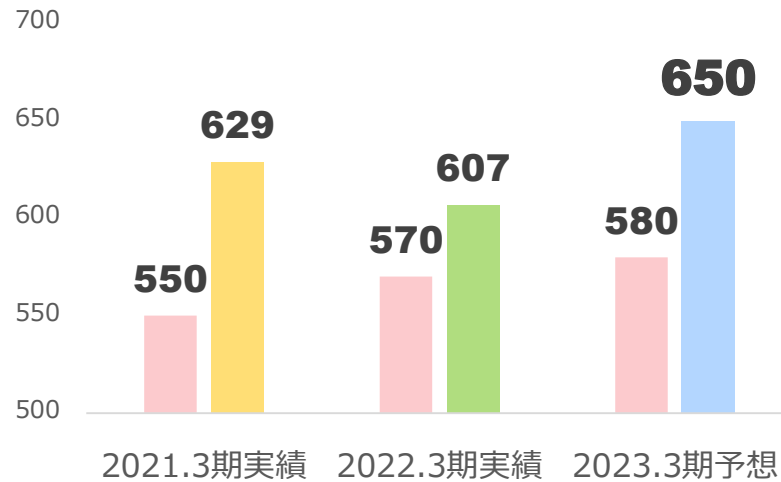
施策

数値目標	事業計画	構造計画	投資計画	SDGs
------	------	------	------	------

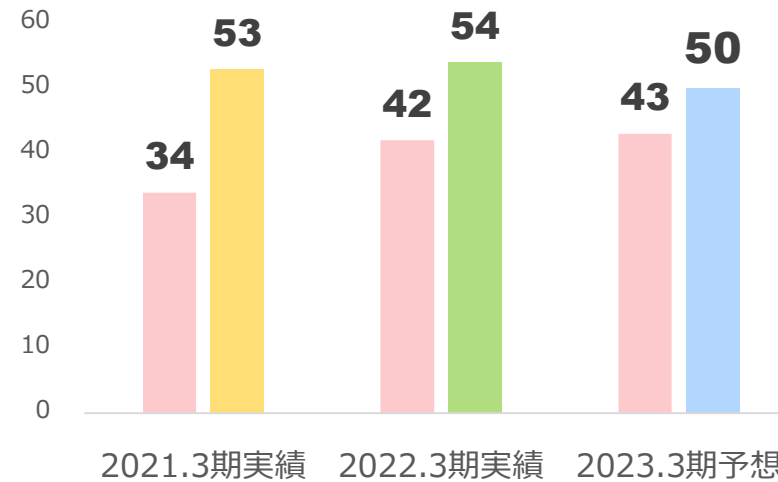
経営指標目標

単位 | 億円

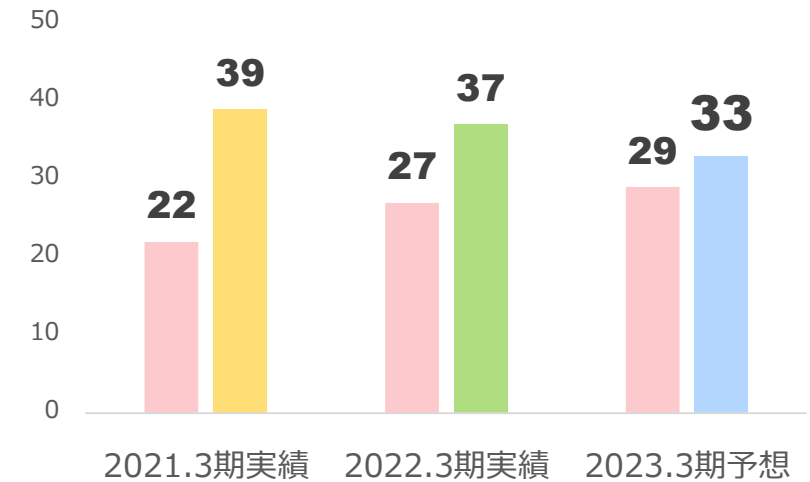
売上高



経常利益



当期純利益



中期経営計画

2030年に向けて着実に成長すべく、数値を計画

2021年3月期 実績

北陸新幹線等の新設橋梁や補修補強事業が増加

2022年3月期 実績

山木工業の売上・利益を当期より加算したものの、受注目標案件の期ずれや受注時期の遅れなどで売上は前期を下回るが、繰越工事においては高い利益率を確保

2023年3月期 予測

豊富な受注残をベースにOSJB発足以来最高の売上を見込む
採算性の高い補修補強やニューマチックケーソンの工事量が増加し、利益のさらなる向上を目指す

* 2022年3月期、2023年3月期の数値は、山木工業の数値を含む。

経営指標目標

	2021年3月期 実 績	2022年3月期 実 績	2023年3月期 目 標
ROE	11.3%	10.8%	8%以上
配当性向	23.9%	33.9%	40%程度
総還元性向	31.8%	42.0%	40%以上

中期経営計画	安定的な配当継続を目指し、目標を設定
2021年3月期 実績	配当を継続し、3億円の自己株式購入を実施
2022年3月期 実績	増配（8円→11円）、かつ3億円の自己株式購入を実施
2023年3月期 予測	2022年3月期の配当を継続

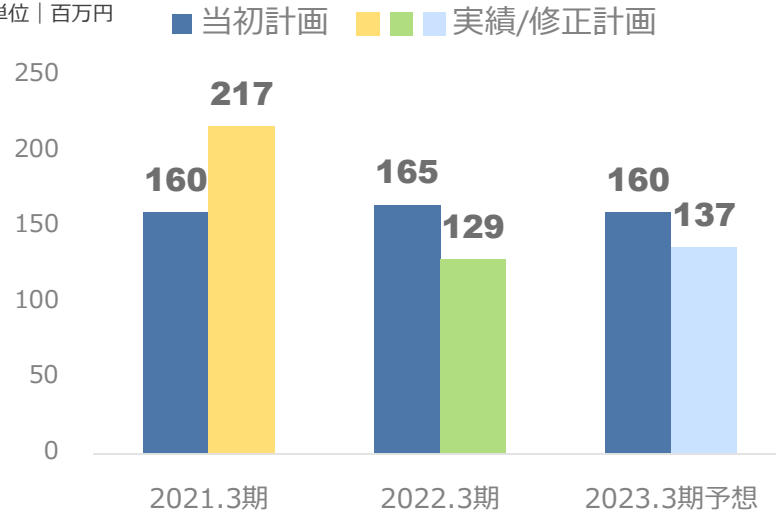
* 2022年3月期、2023年3月期の数値は、山木工業の数値を含む。

事業計画 | セグメント別売上の進捗

新設橋梁

- グループで持つ特化工法（SLJ、SCBR等）の新設橋梁への採用拡大
- 強みが活きる上下部一式工事への注力

単位 | 百万円



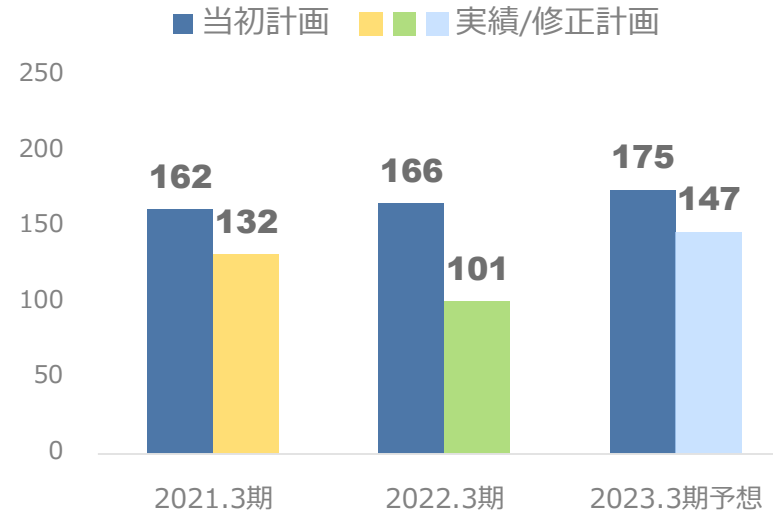
- 北陸新幹線工事等で売上を伸ばす

- 上下部一式工事等がピークを過ぎる

- 大阪モノレールや6車線化等の大型工事が動き始める

ニューマチックケーソン・一般土木

- 継続的な設備投資による技術と施工能力の向上
- 技術開発による自動化と生産性向上



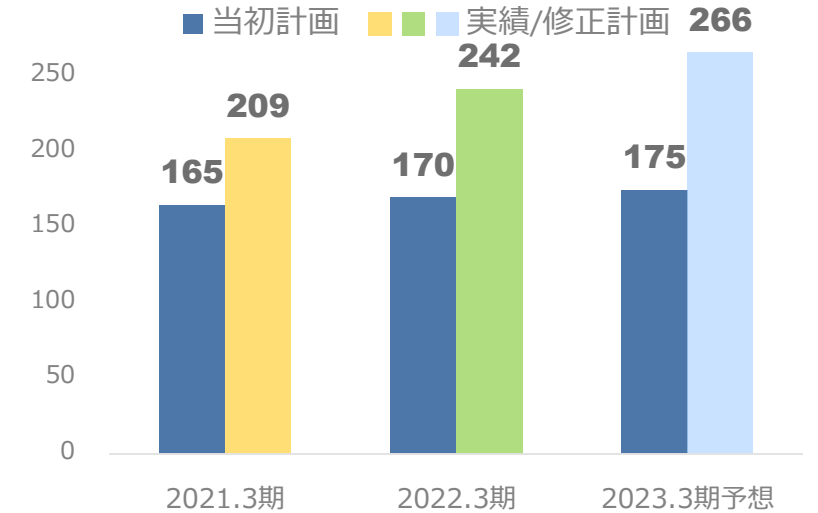
- 大型工事数件の着工が若干遅れるも一定の売り上げは確保

- 大型案件の期ずれや着工遅れにより売上低下

- 一般土木工事が減少するも治水関係の大型ニューマチックケーソン工事が動きだし橋脚基礎工事増加

補修補強

- グループで持つ特化工法の採用拡大
- コンクリートと鋼構造に対応できる総合力で受注・収益拡大



- 好調な受注、大型の設計変更により、大幅な増収

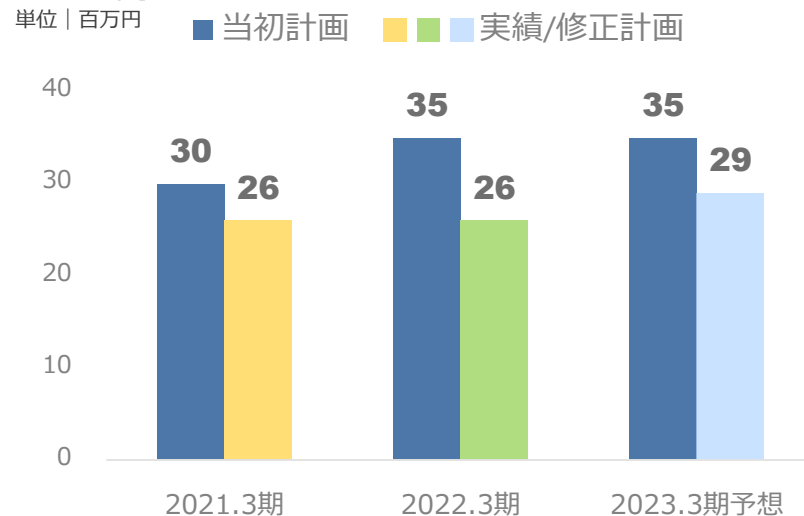
- グループで、床版・桁の取替、耐震補強に対応し、売り上げが大幅増加

- コンクリート構造、鋼構造に対応できる強みと特許工法を複数有する利点を活かしてさらに売上を伸ばす

事業計画 | セグメント別売上の進捗

PC建築

- プレキャスト技術の開発と活用による受注・収益の拡大
- BIM等IT技術の積極的な活用による生産性の向上



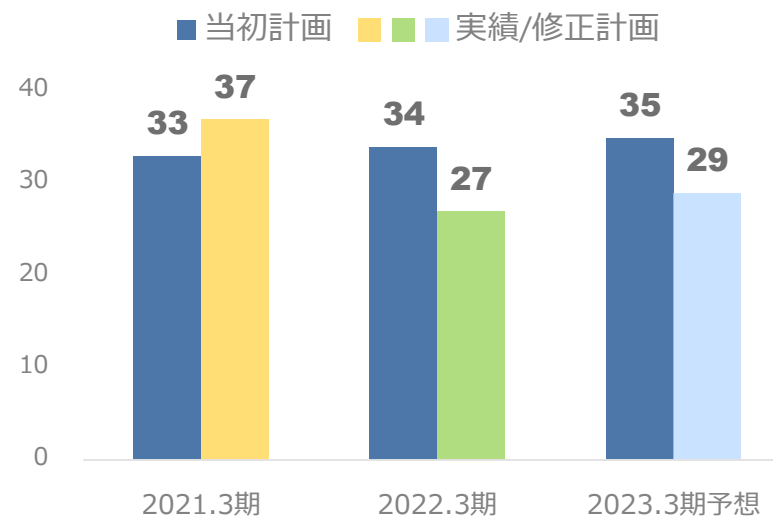
- プレキャスト件数は増加傾向にあるものの、大型工事の延期で計画にショート

- 提案採用件数が伸び悩む

- プレキャスト技術の開発が進み、提案のバリエーションが増加、次期中期経営計画での売上増を目指す

製品・新規・海外事業

- 製品販売、環境事業、周辺事業（IH式塗膜剥離工法による塗膜塗替え工事等）、不動産賃貸、海外事業等



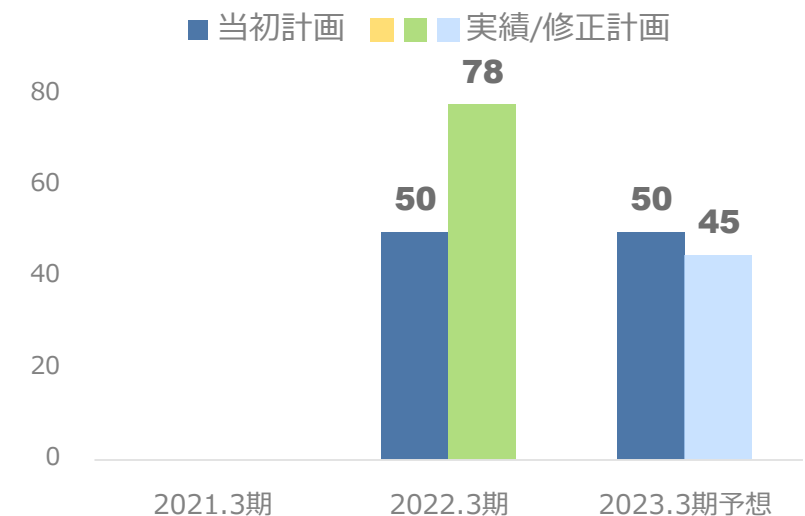
- 大型工事のコンクリート工場製品に加え、IHの周辺事業も漸増し、不動産事業も開始

- 工場製品は堅調に推移するものの、環境関連新規事業一部延期、周辺事業（IH関連）減少などによりやや計画を下回る

- 継続的な工場製品への取組と、IH関連事業の本格的営業、さらには海外事業等の展開を図る

港湾事業

- 船団を保有し護岸整備工事、人工島の造成工事、防波堤の再建工事等あらゆる港湾工事に対応
- グループ会社として更なるシナジー効果に期待



- 小名浜港東工の整備事業の大規模工事が竣工

- 今後数年は小名浜湾整備事業の谷間にあたり、中小規模の港湾・土木工事に注力するとともに、グループシナジーを図る

事業状況 | 工事の紹介

多摩川床版取替工事

床版取替状況



中央分離帯施工中



材料搬入状況



多摩川橋全景



発注者：中日本高速道路株式会社

請負者：オリエンタル白石・日本橋梁JV

工期：令和元年8月～令和5年8月

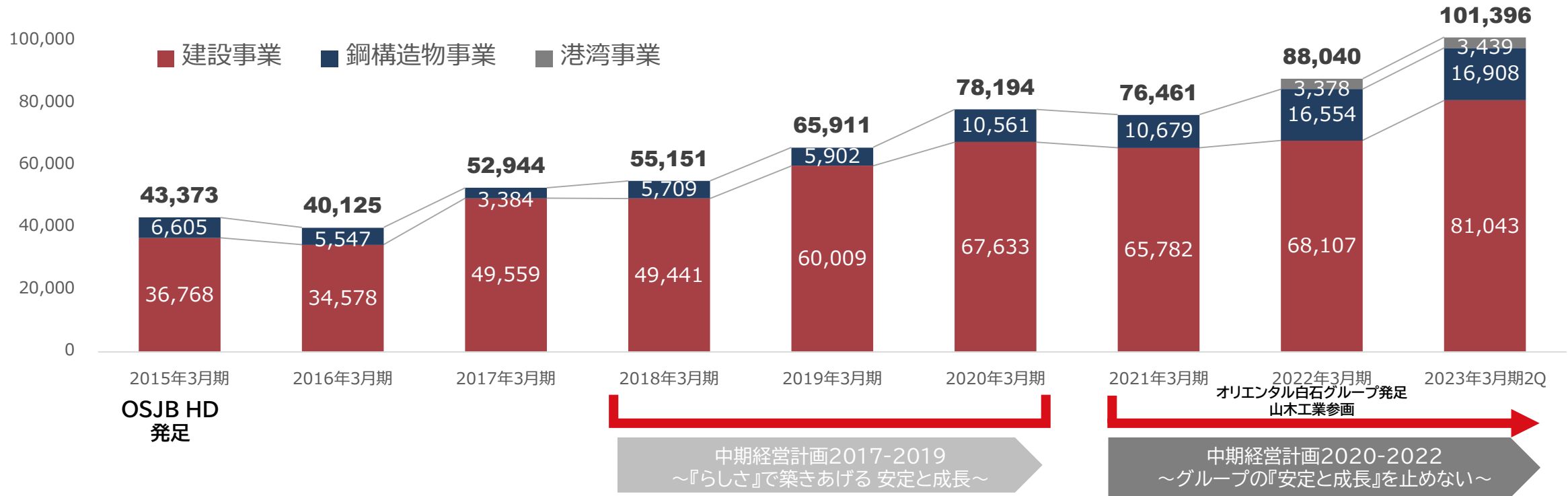
請負金額：5,560,198,000円（JV全体）

特徴：中央自動車道の国立府中IC～八王子IC間に架かる交通量が約**68,000台/日**（大型車混入率約20%）という**重交通**である**多摩川橋**での**床版取替工事**。**交通への影響を最小限**にするために、中央分離帯を改良して新たに2車線分の走行路として活用し、現行の**片側2車線を確保**して行っている。これにより施工は車線をシフトしながら行われ、中央分離帯部、下り線、上り線の順番で床版取替えを行っていく。**「これまで渋滞は発生していない」（NEXCO中日本談）**。

事業環境

グループ全体の受注残の推移

単位 | 百万円



- 受注残は毎年増加し、OSJB HD発足以来9年間で、最多の受注残（1,013億円）
- 大規模更新などの補修補強工事、ニューマチックケーソンなど、当社が強みを持ち、採算性の高い受注残が多い
- 将来的に追加契約が確実な『潜在的な受注残』を有する

投資計画 | 進捗

■ 設備投資・研究開発投資により、競争力向上・安定収益を目指す

項目		投資額（5ヶ年）	2023年3月期2Q時点	
生産能力向上 （設備投資）	工場、機材センターの機能増強 ニューマ機械増設と仕様増強 IoT、AI、ロボット投資	70億円	ニューマ機械増設と仕様増強 工場等機能増強 等	40億円
生産体制強化 （M&A 外注等）	地域建設会社、周辺事業会社のM&A 現場支援機能の外注 人材育成・教育投資	40億円	山木工業M&A ニューマ研修施設 等	38億円
研究開発 （技術提携等）	技術研究開発 産官学との共同研究 異業種との共同開発	30億円	大学等との共同研究含む 技術研究開発	18億円
その他 （新規事業）	海外事業（共同工場・現地企業買収） 国内事業（循環型植物工場、周辺事業）	30億円	人材確保支援事業	0.1億円
不動産	賃貸不動産物件等	30億円	都心の賃貸オフィスビル	25億円
5ヶ年投資額合計	200億円		123億円	

ニューマチックケーソン大型工事への対応、工場の更新・機能強化、浚渫船の更新、カーボンニュートラルへの対応、当社の強みを増すための研究開発、協力会社を含めた人材の確保、当社とシナジーを生むM&Aなどへの投資を継続

SDGs

SDGsの達成に向けて「わがグループらしさ」をもって貢献

経済・暮らしへの貢献

物流・観光による
経済活性

インフラの
老朽化対策

地方創生

社会基盤
整備

国土の強靱化

災害に強い
地域づくり

子どもたちの
原風景

安全・安心への貢献

豊かな地域づくりへの貢献

カーボンニュートラルに向けた取組

- ・ TCFD枠組みに則した活動
- ・ サステナビリティ委員会を中心に気候変動対策を検討
- ・ 指標と目標（2030年度CO2排出量削減目標）を12月に公表予定
- ・ TCFD提言への賛同表明
- ・ SBTi認証に向けた対応（実務、体制）
- ・ 対策の検討・実施
 - * 省エネ設備機器導入、自家発電（太陽光パネル設置）、再エネ電力採用、ICT施工による効率化
 - * CO2削減に関する研究開発
 - 高炉スラグによりセメント量を減じたコンクリート
 - CO2ナノバブル水を練り混ぜ水としたコンクリート
 - 重油を多く使用する蒸気養生を不要とする工法開発

